

令和 6 年 12 月 13 日

三条市教育委員会
教育総務課庶務係

井上係長 様

嵐南小学校
校長 山宮 尚

統合による適正化や小規模校での学校運営に関する意見

【地域コミュニティに関して】

- ・下校の際の不審者問題にとっても心を痛めています。「おはよう」のあいさつ運動も大切なのですが、下校の際の安全見守りを強化することも必要と考えます。
- ・昔は各自治会に子ども達と接するイベントなどがあり、年齢を超えたコミュニティ形成があったと感じます。しかし子どもの人数も減り、また企画する側の自治会も高齢化がすすみそもそものコミュニティ維持が難しくなっています。ですから尚更学校を中心としたコミュニティ活動が必要と感じます。そこでの注意点としてはもともと的小学校区への愛着はあれど、統合した学校についての愛着がない状況からのスタートとなるので、いくつかの学校を統合する場合は学区の自治会全てを交えた交流組織のようなものの立ち上げがあると効果的と感じます。
- ・学校を中心ではなく、学校と地域の協力、協働が一番大切だと思います。理想は、学校が放課後に子どもが集まって勉強し、いろいろな学びができる場所であること。先生や地域の方、企業や団体などのボランティアで連携し、協働する。ハードルはかなり高いと思いますが、実現すれば地域の活性化につながると 생각합니다。

【統合に関して】

- ・児童数が減少する現状において必然だと思います。子ども達はその環境の中で「生きる力」を身に付けていきます。一番大切なことは教職員の確保です。
- ・小規模校では、メリットもあるかもしれませんが、学校における経験の少なさや、先生などの業務負担を考えるとデメリットの方が多いと思います。基本的には小規模校になったら順次統合していくべきだと思います。(小規模校になることが見えた数年前から、学校行事や先生の業務やテスト、教材、事務作業など、共有できることはできるだけ共有して行うことが好ましいと思います。)
- ・人数が多くなることで摩擦は増えるでしょうが、実社会においては人と関わることで仕事や生活をしていくので、いろいろな人と接する機会があることが望ましいと思います。ですから、クラス替えができる程度の人数規模が望ましいです。
- ・あまりにも少ない人数での学びは、子どもにとってはいいとは思えないので統合による適正化が必要と考えます。統合するのであれば、議事録の P21 (加茂の小学校の話)にあるように、順を追って地域、保護者、学校が納得した中で話が進むことが理想です。

〈三条市全体について〉

統合による適正化や小規模校での学校運営に関する意見

学園名 一ノ木戸ポプラ学園

学校を中心とする地域コミュニティの在り方や統合による規模の適正化、小規模校の運営の継続など、将来的な学校の在り方についてご意見がありましたらお聞かせください。

- 地域コミュニティにとっての学校の存在は大きい。三条市の統廃合を開始する基準に沿った検討については、保護者・地域住民の意向を十分踏まえていねいに進めることが必要である。

自学園の現状を踏まえた小学校の在り方に関する意見

学園名 三条学園

☒ 検討は必要だと思うが、今のところ考えていない

1 理由及び学園運営協議会の主な意見

○ [理由として]

- ・統廃合の検討を開始する基準にしばらくの間は当てはまらないので、自学園の統廃合を含めた検討は今のところ考えていない。(複式学級が一つの基準だと考える。複式学級が2学級編成になるなど学校規模が著しく小規模化した際には検討が必要になると考える。)

○ [その他学園運営協議会での主な意見]

- ・現在の学校規模を考えると上林小学校は、確かに規模は小さい。しかし、小規模の良さもある。児童一人一人に目が行き届き、先生と保護者の関係は良好である。また、地域と学校とのつながりが強く、地域をあげて学校を支援する伝統がある。これら、上林小学校のよさを残してほしい。
- ・保育所のつながりで裏館小学校に学区外で通学している児童が多い。また、石上一丁目・二丁目の一部は、裏館小学校の方が近く、学区の見直しを検討することも必要なのかもしれない。
- ・登下校等の安全面の確保も大事だと考える。児童数だけで考えるべきではない。統合により通学距離が延びることはそれだけ事故のリスクを抱えることとなる。

〈三条市全体について〉

統合による適正化や小規模校での学校運営に関する意見

学園名 三条学園

- ・第2回の講義でお聞きした学校運営のコストについて意識していくべきではないか。税収が限られている以上、統廃合によりコストを軽減してその分を教職員の雇用等に充てるなど効率よく教育を充実させていく方がよいのではないか。

自学園の現状を踏まえた小学校の在り方に関する意見

四つ葉学園

○統廃合の検討を開始する基準としては、次の1～3でありますが、

- 1 校舎の安全性が確保できない場合（一定の安全性は確保されています。）
- 2 著しく小規模な状況（複式学級が2学級編成）が継続する場合
- 3 保護者・地域が市に要望する場合（現在、教育委員会への正式な要望はありません。）

【上記基準を踏まえて、自学園の統廃合を含めた検討はどのようにお考えですか】
該当する考えの□にレ点を入れて、下の欄に理由をお聞かせください。

☒ 検討を開始したい ⇒ 1と2に記入してください

☐ 検討は必要だと思うが、今のところは考えていない

☐ 現状のままで良い

1のみ記入してください

☒ その他

1 理由及び学園運営協議会の主な意見

当学園では、存続を求める声、再編成やむなしとする声、双方の意見が出されました。いずれにしろ、①複式学級だからという理由ではなく、小中一貫教育を地域コミュニティとともに進めている三条市として、今後目指す姿を具体的に示すこと。②その後、保護者や地域住民の声をしっかり聞いて進めること。

以上2点に沿って検討を進めるよう要望します。当学園では、各学校CSでも話し合いを行いました。資料として添付します。

【存続を求める声】

- 1 今すぐに統廃合は難しい。コミュニティがしっかりしている。
- 2 統廃合する必要はない。地域の拠り所がなくなる。
- 3 中学校で一緒になるので、小学校は少人数でよい。
- 4 少人数の良さを継続してほしい。
- 5 小学校コミュニティがなくなることが想像できない。

【再編成やむなしとする声】

- 1 先を見据え、大人数で学校生活を送ることができると良い。
- 2 今後の児童数を考えるとやむを得ない。
- 3 教育活動をする上である程度の人数がいた方が良い。

【幅広く意見を聞くことを求める声】

- 1 結論ありきであってはいけない。最初から1つにするのは無理がある。
- 2 子どもたちの意見を聞くことが大切だ。
- 3 保護者、保育園児をもつ世代の意見を聞く必要がある。
- 4 市内全体、小中一貫教育の視点で検討してほしい。すべての小中学校を一貫校にするぐらい先を見通してほしい。
- 5 今はまだ考える必要はない。様々な意見を聞くことが必要である。
- 6 若い世代の意見を聞く必要がある。

【その他】

- 1 小学5年生まで各小学校で過ごし、6年生になったら中学進学に備えて一緒に教育を受けるという方法もある。

2 統廃合をいつしたいと思いますか。

三条市が今後の小中一貫教育の目指す姿を示すこと。その後、幅広く意見を聞いてから結論を出す。時期は出せない。

井栗小学校CS

- ・現在の低学年、保育所や幼稚園、それぞれの保護者の声を聴けるようにアンケートを実施するとよい。
- ・メリットとデメリットの両方があると思う。人間関係が固定されることが無くなる、関係が希薄になる。地域に根差した行事などがどうなっていくのか心配。
- ・5年先のことでなく、もっと先のことを考えて、「20年先にも四つ葉学園を残したい」という思いを示し、アクションを起こしていくべきである。
- ・学校が全て一緒になっていくと、自分の知らない地域が増え、よく知らない学校になってしまわないか心配。
- ・統合されていくと、これまで各コミュニティでつないできた細かい行事が無くなってしまわないか。
- ・今まで学校とコミュニティが一生懸命につながって、特色ある活動を残してきた。一緒になってしまうとそれらが減ってしまったり、薄れてしまったりするかもしれない。
- ・地域のよりどころが学校であり、それを実現させるのがコミュニティスクールと研修で話されていた。学校が減っていったら、それぞれの地域のよりどころはどうなるのか不安。
- ・子どもの数が少なくなっている現実。いずれ統合すると思うと、四つ葉学園を残していくことを前提にして、どのように残していくべきかを市と学園で話し合って進めていくのがよい。

旭小学校 C S

- ・柳川、須戸に団地ができたとき、一時期児童数が増えたが、若手は定住しなかった（子どもたちは巣立っていった）。小中一貫校という言葉もないころは「三貫地は上林小の方が近いのに」という声もあった。いつの時代も「旭小は遅かれ早かれなくなるのだろう」と感じている。旭小に転入した子は「大きな学校の方が、友達がたくさんできてよかった」と話していた。
- ・現状のままでよいと思っていたけど、先を見ると難しい。旭地区全体から意見を集め、様々な意見に触れながら議論を進めていくことで、納得できる結論に辿り着くと思う。
- ・年寄りばかりになって、地域として成り立たなくなることが心配だ。
- ・将来のことを考えると、統合の時は来ると思う。どの学校と統合するか、ではなく、四つ葉学園で小中一貫校となることが想像される。広い世代からアンケートを取り、様々な考えに触れるのがよい。
- ・各地区の方々に思いが違おうだろう。統合の方に話は進むだろうけれど、今後も旭の土地で暮らしていくのだから、納得が必要。
- ・旭小新校舎内覧会時に市職員が「将来的には高齢者施設として使用する」と話していたので、旭地区の住民はそうのようにイメージしている面がある。10年後はもう、（ここにいる）みんなの顔がもうない。今の普段の関係がなくなっている。
- ・下田はスクールバスの運用が既があり、統合に向けた素地ができている。旭四地区のコミュニティは存続できるのか。コミュニティがあるうちは、議論は深まらない。
- ・顔を合わせる機会が、普段はない。関係が希薄になっていくのは仕方ないが、今後どのようにコミュニティを存続させていけばいいのか。
- ・コミュニティの存続について、地域としての努力はない。旭小 PTA に頼っている状態。児童の減少に伴って保護者（PTA 組織）も減っていく。
- ・未来を担っていく、若い世代の意見をしっかり受け止めていく必要がある。また、四つ葉学園で新校舎が建設され、スクールバスで登校できるならいいとは思いますが、それについて議論するのはまだ時期ではない。
- ・旭を盛り上げてきた諸先輩方の意見を、旭地区の中でどのようにまとめていくか、また、地域コミュニティが今後の児童数減をどのように支えているかについて、よく考えていく必要がある。

○アンケートを取る話題は以前も出た。アンケートの作成と集約は市の業務であろう。市民へアンケートを取り、地区ごとにまとめた資料を作成してもらいたい。それをもとに未来について議論ができるとよい。この協議会で、結論を出せることではない。

保内小学校CS

- ・ 少子化が進んでいる。高校も危うい。
- ・ 子どもたちも多様化している。しっかり見取れる体制づくりをしてほしい。
- ・ 職員の人数を確保してほしい。
- ・ ふるさとを思う気持ちを大切にしてほしい。
- ・ 学級数、教職員数の具体的な換算を示す。
- ・ 一ノ木戸小に流れている実態がある。
- ・ 旭に保育所がない。
- ・ コミュニティのあり方を、これをきっかけに考え直す。
- ・ 社会性を育てるためにも統合が良い。
- ・ 大崎学園のように、四つ葉学園をつくる。
- ・ 大崎学園のメリット、デメリットを学ぶ。
- ・ 単学級の良さもある。
- ・ 地域の団結が強い。その良さを絶やさないように協力体制を築いていく。
- ・ 大人数、少人数それぞれの良さがある。
- ・ 教育の質を下げないようにしてほしい。
- ・ 地域、自治会に広げて幅広く意見を聞く。
- ・ 地域がカバーしていく体制をつくる。

＜三条市全体について＞

統合による適正化や小規模校での学校運営に関する意見

学園名 四つ葉学園

学校を中心とする地域コミュニティの在り方や統合による規模の適正化、小規模校の運営の継続など、将来的な学校の在り方について御意見がありましたらお聞かせください。

当学園では、存続を求める声、再編成やむなしとする声、双方の意見が出されました。いずれにしろ、①複式学級だからという理由ではなく、小中一貫教育を地域コミュニティとともに進めている三条市として、今後目指す姿を示す中で議論する。②その後、保護者や地域住民の声をしっかり聞く。

以上２点に沿って検討を進めるよう要望します。

【存続を求める声】

- 1 日頃から地域の協力が絶大である。統廃合によって失われるものが大きすぎる。

【再編成やむなしとする声】

- 1 職員数は多いほどよい。
- 2 様々な活動の単価が上がる。
- 3 ある程度的人数での競い合いが必要である。
- 4 人間関係が固定化されてしまう。

自学園の現状を踏まえた小学校の在り方に関する意見

学園名 瑞穂学園

○統廃合の検討を開始する基準としては、次の1～3ですが、

- 1 校舎の安全性が確保できない場合(一定の安全性は確保されています。)
- 2 著しく小規模な状況(複式学級が2学級編成)が継続する場合
- 3 保護者・地域が市に要望する場合(現在、教育委員会への正式な要望はありません。)

【上記基準を踏まえて、自学園の統廃合を含めた検討はどのようにお考えですか】

該当する考えの□にレ点を入れて、下の欄に理由をお聞かせください。

☐ 検討を開始したい ⇒ 1と2に記入してください

☒ 検討は必要だと思うが、今のところは考えていない

☐ 現状のままで良い

☐ その他

1のみ記入してください

1 理由及び学園運営協議会の主な意見

- ・西小、月小とも校舎の築年数(老朽化)が不安である。10年後に現校舎で子どもたちが学ぶことが可能であるのか。現校舎のリミットはいつ頃であると想定しているのか知りたい。
- ・大崎学園や嵐南小・一中のように、1つの校舎で中学校、小学校が一緒になるのであれば統合に賛成という意見もある。
- ・統合して通学距離が長くなった場合、バス通学等で通学時間が長くなり負担となることが考えられる。

- ・子育て世代の意見を大切にしたい。
- ・地域の近い所に学校を建築してほしい。
- ・学校は地域にとって大切な要素。
- ・学校が近いから、新居が建つ場合もある。(不動産価値)
- ・学校は地域の中心にあるもの。
- ・学校がなくなってしまうと、新しい世帯が引っ越してこなくなるのではないか。
- ・地域とのかかわりも減ってしまうのではないか。
- ・適正規模を考え、小さすぎる学校には行かせたくない保護者もいる。

2 統廃合をいつしたいと思いますか。

自学園の現状を踏まえた小学校の在り方に関する意見

学園名 三条おおじま学園

○統廃合の検討を開始する基準としては、次の1～3であります、

- 1 校舎の安全性が確保できない場合(一定の安全性は確保されています。)
- 2 著しく小規模な状況(複式学級が2学級編成)が継続する場合
- 3 保護者・地域が市に要望する場合(現在、教育委員会への正式な要望はありません。)

【上記基準を踏まえて、自学園の統廃合を含めた検討はどのようにお考えですか】

該当する考えの□にレ点を入れて、下の欄に理由をお聞かせください。

□検討を開始したい ⇒ 1と2に記入してください

□検討は必要だと思うが、今のところは考えていない

□現状のままで良い

☑その他

1のみ記入してください

1 理由及び学園運営協議会の主な意見

三条市未来の学校検討委員会において、今後の小学校の在り方について検討が始まったところであり、今後の議論を見守りたい。また、学園運営協議会が地域の小学校の統廃合について検討する組織として適切なのか、また地域住民の理解を得られるのか疑問が残る。地区自治会長協議会を初めとし、学校教育の直接の受益者である児童生徒の保護者から意見を聴く体制が必要ではないかと考える。

現在、当学園運営協議会では様々な意見が出ており、一定の見解とすることが難しい。当会で出た意見は次の①～⑤である。

①三条おおじま学園の小学校の統廃合を検討することについて

当学園においては、都市化の進展が著しい須頃地域に立地する「須頃小学校」は今後も児童数の増加が見込まれており複式学級は想定されていないが、一方で、農村地域に立地する「大島小学校」は児童数の増加が見込めず、今後も複式学級の2学級編成が継続する見込みである。このことから、三条市教育委員会の基本方針により、「大島小学校」が統廃合の検討を開始する基準に該当することは認識している。三条市において、子供の人口が20年後に半減すると推計されており、教育的な観点から、小学校の統廃合が喫緊の課題であることも認識している。しかし、本件を学園運営協議会だけで議論するのは難しい。

②大島小学校の統廃合はやむを得ないとする意見(多数 なおかつ大島小学校運営協議員は全員)

・大島小学校は、大島地域(大島、代官島、井戸場、荻島)のコミュニティの核となる施設であり、小規模校のメリットを生かして引き続き存続してほしいが、今後も複式学級の2学級編成が継続する見込みであることから、残念ではあるが、統廃合の検討はやむを得ない。

- ・大島小学校区は大規模な住宅団地がなく、現在約500軒だが増える見込みがない。
- ・大島小学校の保護者の負担(金銭面やPTA等の役職)を考えると、統合が望ましい。
- ・大島小学校は、学年により、極端に男女比に違いがある。これは望ましい状況ではない。
- ・複式学級が何年も続くのでは、学びの質の確保が難しいのではないかと。
- ・複式の理科や社会は(A年度、B年度の関係)で習う順番が逆になることがあり、苦しんでいる子どもの姿が見られる。

- ・少人数では、競争意識が薄れたり、様々な活動ができなかったりするのではないかと。
- ・様々な人と関わる経験を大切にしたい。
- ・定数減による小規模校の先生の負担もかなりあるように思う。
- ・すでに須頃小学校との交流が進んでおり、須頃小学校と合併してはどうか。自分の子は、もっと須頃小の子どもと交流したいと言っている。
- ・大島小の子どもは、友達のことを受け入れる良さがある。一方で、高校進学等で大人数の人と出会った際、友人関係が作れるのか心配である。
- ・資料では、R7,R9,R11に新入生の数が、大島小・須頃小合わせて32人を超えており、学年で2学級編成になる。
- ・大島中学校と一体化し、義務教育学校にしてほしい。

《統廃合の検討について》

〔早急に検討を開始したいという意見〕

- ・早く始めた方が、様々な意見を聞き、検討できる。
- ・予算の確保ができ、スクールバスや校舎など具体的な検討を始められる。
- ・大島在住の未就学児の保護者の中に、他の小学校への進学を考える人が出ている。

〔時期尚早であるとする意見〕

- ・これから入学する保護者の声を聞く機会を設定してほしい。
- ・両地区の自治会長からも広く声を聞き、協議すべき。

《校地校舎や、統合先となる須頃小学校に関係した意見》

- ・須頃小学校の校舎での統廃合は難しい。
- 〔理由〕教室数が足りない。建築年が古い。
- ・校舎建て替えの場合、校地の確保、土地の価格から、現在の須頃小学校周辺は難しいのではないかと。
- ・大島中周辺、大島小周辺などに校舎が建ち、今までよりも学校が遠くなるなら、須頃小保護者、地域の方は反対するのではないかと。
- ・統廃合をしても、須頃小学校の校歌と学校名は残したい。これは地域住民、須頃小卒業生としての願いである。
- ・大島小学校と須頃小学校を統合し、大島中学校付近に校舎を建設してはどうか。さらに、大島公民館も一体化させ、コミュニティスクールとしてはどうか。敷地も十分にある。この地域、将来、三条市の中心になると思われる。学園の存続は可能である。

③統廃合の検討はせず、小規模校のメリットを生かして存続してほしいとする意見

- ・大島小学校は大島地域のコミュニティの核となる施設である。小規模校の強みを生かした魅力ある学校づくりを勧め、存続してほしい。
- ・大島小学校は地域の大切な学校であり、少人数であっても地域を生かした学習や地域の高齢者福祉施設と交流など、質の高い教育を行っている。
- ・これまで学園の小学校間で合同学習に取り組むなど交流を行っており、良好な関係を築いてきた。小中学校の接続においても効果が見られる。
- ・文部科学省の「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」には、少人数について、「小規模校では一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細やかな指導が行いやすい」「意見や感想を発表できる機会が多くなる」「複式学級においては、教師が複数の学年間を行き来する間、児童生徒が相互に学び合う活動を充実させることができる」など、様々なメリットがあるとされている。
- ・須頃小学校と統合したとしても、現在の状況では単学級になる。思春期を迎える中学校で、子供が新しい人間関係を築き、成長するために、小学校を統合しない方がよい。
- ・三条市移住促進計画もある。統廃合を検討するよりも、この地域での子育て世帯を増やす働きかけが必要ではないかと。
- ・須頃小学校の希望者を大島小学校に進学できるよう、スクールバスの手配をしてはどうか。

④児童生徒や保護者の意見を聞くことが必要であるとする意見

- ・学園運営協議会や学校運営協議会で協議するだけでなく、児童生徒やその保護者、また、受益者となる未就学児のいる家庭の考えを聞くべき。

⑤その他

- ・これまで大切にしてきた、大島小学校と「特別養護老人ホームおおじまの里」との交流は、継続してほしい。
- ・須頃小校区の児童の中で、小学校進学時から他校に進学しているケースがある。三条市はどのように考え、対応しているのか。
- ・大島小学校と須頃小学校とが合併しても、小規模校であることには変わりなく、今後、また統廃合が繰り返されるのではないかと。大島小学校の問題とするのではなく、三条市は学区を見直し、根本から計画をつくるべきではないかと。

以上

＜三条市全体について＞

統合による適正化や小規模校での学校運営に関する意見

学園名 三条おおじま学園

学校を中心とする地域コミュニティの在り方や統合による規模の適正化、小規模校の運営の継続など、将来的な学校の在り方について御意見がありましたらお聞かせください。

学園運営協議会にて下記の意見が出ました。

《将来的な学校の在り方》

- 三条市の小中学校の形態は、義務教育学校・一体型・分離型とあり、市民は混乱していると思う。統一すべき。すべて義務教育学校にしてはどうか。
【理由】前市長は、学園の形態を統一すると発言していたと記憶している。
児童生徒数がさらに減少した場合は、学園の統合を考えたらどうか。
- 学区を見直すところから始めなければ、統廃合した学校をまた統廃合することになるのではないか。

《統合による規模の適正化》

- 三条市は、「未来の学校検討委員会」で少子化のさらなる減少を見据えた将来の学校の在り方について検討しているようだが、小規模校の存続を希望する意見についても尊重すべきではないか。

《その他》

- 「未来の学校検討委員会」の内容や委員から出された意見、教育委員会の見解について、地域住民に十分説明をしてほしい。
- 三条市は、未就学児がいる家庭の意見を、アンケート等で聞くべきではないか。
- 学園運営協議会は地域の小学校の統廃合について検討する組織ではない。
- 三条市は他の市町村に比べて統廃合の動きが遅いのではないか。
- 統廃合後の使われなくなった校舎の活用について、学区の住民に限らず広く意見を聞き、教育支援センターをつくるなど有効活用してほしい。

以上

自学園の現状を踏まえた小学校の在り方に関する意見

学園名 さかえ学園

○統廃合の検討を開始する基準としては、次の1～3ですが、

- 1 校舎の安全性が確保できない場合(一定の安全性は確保されています。)
- 2 著しく小規模な状況(複式学級が2学級編成)が継続する場合
- 3 保護者・地域が市に要望する場合(現在、教育委員会への正式な要望はありません。)

【上記基準を踏まえて、自学園の統廃合を含めた検討はどのようにお考えですか】

該当する考えの□にレ点を入れて、下の欄に理由をお聞かせください。

☐ 検討を開始したい ⇒ 1と2に記入してください

☐ 検討は必要だと思うが、今のところは考えていない

☒ 現状のままで良い

☐ その他

1のみ記入してください

1 理由及び学園運営協議会の主な意見

- ・保育園・幼稚園の保護者の意見を優先し、検討する場が必要である。
(応募の方法を含めて)
- ・小学校は地域コミュニティの核としての機能があるので、軽々に進めることは反対する。
- ・統合する、しないでかかる費用について正直に公表するべきである。
(建設費、維持費、管理費等)
 - ① 現状の場合
 - ② 小学校を統合する場合
 - ③ 小中学校を統合し、義務教育学校にする場合
- ・自分の子どもが対象でない場合、話し合っても仕方がない。
- ・市の方針に従うのがよい。
- ・自分の子どもは、大勢の中で切磋琢磨させたい。
- ・スクールバスの範囲を緩めて欲しい。(登下校の安全の確保を優先)
- ・地域に学校がなくなると地域のコミュニティが心配である。
- ・大規模校、小規模校それぞれの良さがある。

2 統廃合をいつしたいと思いますか。

＜三条市全体について＞

統合による適正化や小規模校での学校運営に関する意見

学園名 さかえ学園

学校を中心とする地域コミュニティの在り方や統合による規模の適正化、小規模校の運営の継続など、将来的な学校の在り方について御意見がありましたらお聞かせください。

- ・ 保育園・幼稚園の保護者の意見を優先し、検討する場が必要である。
(応募の方法を含めて)
- ・ 小学校は地域コミュニティの核としての機能があるので、軽々に進めることは反対する。
- ・ 統合する、しないでかかる費用について正直に公表するべきである。
(建設費、維持費、管理費等)
 - ① 現状の場合
 - ② 小学校を統合する場合
 - ③ 小中学校を統合し、義務教育学校にする場合
- ・ 自分の子どもが対象でない場合、話し合っても仕方がない。
- ・ 市の方針に従うのがよい。
- ・ 自分の子どもは、大勢の中で切磋琢磨させたい。
- ・ スクールバスの範囲を緩めて欲しい。(登下校の安全の確保を優先)
- ・ 地域に学校がなくなると地域のコミュニティが心配である。
- ・ 大規模校、小規模校それぞれの良さがある。

学園名 ただの郷学園

○統廃合の検討を開始する基準としては、次の1～3ですが、

- 1 校舎の安全性が確保できない場合(一定の安全性は確保されています。)
- 2 著しく小規模な状況(複式学級が2学級編成)が継続する場合
- 3 保護者・地域が市に要望する場合(現在、教育委員会への正式な要望はありません。)

【上記基準を踏まえて、自学園の統廃合を含めた検討はどのようにお考えですか】

該当する考えの□にレ点を入れて、下の欄に理由をお聞かせください。

☒ 検討を開始したい ⇒ 1と2に記入してください

☐ 検討は必要だと思うが、今のところは考えていない

☐ 現状のままで良い

☐ その他

1のみ記入してください

1 理由及び学園運営協議会の主な意見

- ・ 市が慎重に進めている、ということがよく分かった。
実際には皆が頭の中でとっくに検討はしているのと思う。
いろいろな場面で話が出ているのも事実。検討を開始するのは必要だと思う。

2 統廃合をいつしたいと思いますか。

- ・ 地域の人が統廃合について考え、覚悟を決めていく時間も必要。
いつ統廃合、ということとは言えないが、検討は速やかに始めてほしい。

<三条市全体について>

統合による適正化や小規模校での学校運営に関する意見

学園名 しただの郷学園

学校を中心とする地域コミュニティの在り方や統合による規模の適正化、小規模校の運営の継続など、将来的な学校の在り方について御意見がありましたらお聞かせください。

- ・ 合理化すれば、そこで生じた余力を放課後学習などに活かせるとよい。空いた学校の活用など。
- ・ 統廃合という問題は、少子化と過疎という社会問題から生まれてくる。行政として（国、県や市）過疎地域に対してどんな対策をしていくか、ということをセットで考えていく必要がある。

<三条市全体について>

統合による適正化や小規模校での学校運営に関する意見

学園名 大崎学園

学校を中心とする地域コミュニティの在り方や統合による規模の適正化、小規模校の運営の継続など、将来的な学校の在り方について御意見がありましたらお聞かせください。

- ・(分校経験から)少ない人数では学習は思うように深められない。SBを活用して統合を進めるべきだろう。
- ・地域に学校がなくなると地域が崩壊してしまうという心配がある。実際にそういう現実を見てきた。「コミュニティをどう活かすか」も同時に検討してほしい。
- ・低学年では分校という案は良い。個の学びを大切にしたい。小さいうちに地域との繋がりを作ってから関係を広げていきたい。
- ・コミュニティの中心に学校があるので、特に吸収される側は不安になる。
- ・SBの規程は見直していかないといけないだろう。
- ・子どもの教育という視点で考えてほしい。大人の都合で反対はよくない。
- ・小規模、大規模の良さはそれぞれにある。上手く良さを活かせないものか。
- ・分校の維持にも予算はかかる。予算に余裕があるわけでもないのに、残せばいいというわけにもいかないだろう。
- ・市民にも委員会の内容を随時伝えてほしい。

＜三条市全体について＞

統合による適正化や小規模校での学校運営に関する意見

氏名 熊 倉 隆 司

学校を中心とする地域コミュニティの在り方や統合による規模の適正化、小規模校の運営の継続など、将来的な学校の在り方について御意見がありましたらお聞かせください。

複式学級がある小規模校に勤務させていただいたことがあります。全校児童一人一人について家族構成や家庭環境のおおよそまで全職員が分かり、それを踏まえた指導を自学級の児童はもちろん他学級の児童に対しても全職員で行うことができました。保護者や地域の方々は学校に対してとても協力的でした。

児童にとっては、次のようなメリットがあったと思います。

- ・児童一人一人の学習状況を教員が的確に把握できるので、個別指導や補充指導などきめ細かな指導が受けられる。
- ・みんなの前での発表・発言の機会が多くなったり、実験・実習や体験の時間（機器や教具などを使用できる時間も）が十分に得られたりする。
- ・体験的な活動や校外学習などを効率的に行うことができ、また、協力も得られやすい。そのため多く設定できる。
- ・縦割り活動（異学年による活動）を組みやすく、リーダーやフォロワーとしての経験を積むことができる。自己有用感につながる。

逆に、次のようなデメリットと思われることがあったと考えます。

- ・1年生から（又は保育園から）ずっと同じメンバーのため、児童同士の関係が固定的である。（学級編制替えができないので、その関係が変わらない。）
- ・現状に満足・安定し、適度な競い合いや向上心が生まれにくい。
- ・多様な考えに接しにくい。主体的・対話的で深い学び、協働的な学習の成立に制約が生まれる。
- ・特定の児童の考えや行動に学級が影響を受けやすい（よいことであればよいのですが・・・）
- ・体育の球技や音楽の合唱・合奏などの学習に制約が出る。
- ・クラブ活動や委員会活動が限定される。

両者を考え合わせる中で、今、求められている主体的・対話的で深い学びの質を高めることを考えると、一定の児童数が必要だと思います。また、学校は、子どもだけでなく教員も育つ場です。学級数が少ないと教員の配置も少なくなり、指導技術の伝え合いの機会が少なくなったり、一人当たりの校務の負担が重くなり研修の時間が確保しにくくなったりという心配があります。このことは子どもへの指導に影響します。

このようなことから、「著しく小規模な状況（複式学級が2学級編成）が継続する場合」に統廃合の検討を開始するという現在の基準は適切であると考えます。ただし、地域の方々の意向、特に、現在在学中及び今後入学予定の児童の保護者の意向を十分にお聞きすることを大事にしていきたいと思います。

<三条市全体について>

統合による適正化や小規模校での学校運営に関する意見

氏名 結城 義則

学校を中心とする地域コミュニティの在り方や統合による規模の適正化、小規模校の運営の継続など、将来的な学校の在り方についての御意見がありましたらお聞かせください。

今後 10 年単位での児童数の減少を見据え、複式学級を解消する小規模の統廃合を行うことを検討していく。文部科学省が示す適正規模に積極的に近づけることはしない。

三条市は面積が広く、地域によって学校を取り巻く環境が異なっている。また、現在、統廃合を検討している県内の状況は、適正規模に近づけるものばかりではない。

加えて、教育的効果を考えると複式学級をできるだけ解消していく方向が望まれる。

＜三条市全体について＞

統合による適正化や小規模校での学校運営に関する意見

氏名 藤島 円

学校を中心とする地域コミュニティの在り方や統合による規模の適正化、小規模校の運営の継続など、将来的な学校の在り方について御意見がありましたらお聞かせください。

統廃合については、10年、20年先を見据えたときにはおそろくどの地域においても余所事ではなく、三条市全体の問題としてしっかり考えていかないといけないということがよくわかりました。各学園の皆様で話し合われた結果、次回の委員会でどのような意見が聞かれるのか注視してまいりたいと思います。

いち保護者としては、子ども達には、集団活動を含め出来るだけ沢山の経験をして学校生活を楽しくもらいたい、そして出来るだけ様々な人々と関わりながら学び、自己有用感を育んでいてもらいたいと強く願っています。

貞広教授の講演を拝聴してとても興味深かったことのひとつに、京都の中学校の例(中学校と保育所、高齢者福祉施設等との複合化)がありました。地域の色を出しながら、子ども達の学びに活かすことができ、地域の活性化にもつながりそうな魅力的な取り組みと感じました。予算の問題等難しいかとは思いますが、三条市でも実現できたら良いのではないかなと思います。

＜三条市全体について＞

統合による適正化や小規模校での学校運営に関する意見

学園名 佐藤 江理

学校を中心とする地域コミュニティの在り方や統合による規模の適正化、小規模校の運営の継続など、将来的な学校の在り方について御意見がありましたらお聞かせください。

小学校、中学校、保育園、（介護施設、公の機関等）が入った複合施設にするのがよいのではないかと思います。

①スタッフを共有でき、保育園から中学校まで情報も共有できる。

事務、保健の先生や、スクールアシスタントや、専門科目の先生も枠を超えて関わったら（小と中は免許が違うので難しいかもしれませんが）

②さまざまな年齢が交流することで、実際の生活と同じように関わり合いを持つことができる。最近では児童クラブに行く子も多く、学校の後友達と外で遊ぶことも少なくなったように感じる。社会ではさまざまな年齢の人と関わるが、学校だけが学年ごとの活動で特殊なので、多学年の交流は貴重だと思う。

③少人数が効果的な学習は少人数で、大人数での活動が望ましいときは学年や学校を超えて行う。

④複合施設が難しい場合、または移行するまで、隣の学校と交流活動を増やして大人数での活動も実現させる。例えば、運動会、音楽会、遠足などの行事。体育、音楽、総合の学習など、人数が多いことでメリットのある時間は月1、2回でも共同で行い、少しずつ仲間意識を芽生えさせる。人と環境に慣れた状態で統合することができる。

⑤イエナプラン教育（ドイツで生まれ、オランダで育った）を参考にする。

→年齢の違うグループで活動する。子供が学びについて自主的に進めて行くことで一人一人が自分の持ち味を発揮できるというメリットがある。

岐阜市立則武小学校

イエナスクールのエッセンスを取り入れた活動を月に1回行っている。

1-3年、4-6年のクラスの分かれ教えあったり、自分のペースで勉強し、先生がサポートしている。（イエナプラン教育について 参考 『先生の学校』YouTubeより）せつかくの過渡期なので、時代に合った新しい試みも面白いのではないかと思います、提案してみました。

＜三条市全体について＞

統合による適正化や小規模校での学校運営に関する意見

氏名 大塚 幸子

学校を中心とする地域コミュニティの在り方や統合による規模の適正化、小規模校の運営の継続など、将来的な学校の在り方について御意見がありましたらお聞かせください。

児童数増減計画表を見て、子ども数減り、減りすぎて
がっかりしました。

将来的に統合が必要になるとは思いました。

ただし、せめて合理的に統合が困難な場合もとや
ましました。

IOAの講演会の中で、話しもなりました。

「ポットーニスクール」 一棟型の中一貫教育

(同一地域で成る学校や保育所、公民館など
で、せめて一棟型の中一貫教育に取組む)

「フェーズスクール」 分散型の中一貫教育

(学校間のネットワークを、児童環境と
連携に向けて取組む)

ただし、必要が分かんない、小規模校も必要と
思っています。

＜三条市全体について＞

統合による適正化や小規模校での学校運営に関する意見

氏名 石黒正晴

学校を中心とする地域コミュニティの在り方や統合による規模の適正化、小規模校の運営の継続など、将来的な学校の在り方について御意見がありましたらお聞かせください。

私は、三条市で2番目に大きな一ノ木戸小学校の構成員です。

結論から申しますと、「現状のままで良い」と判断します。
＝中学校区学園運営協議会と同様の判断です。

学校の適正規模は小学校は、
各学年2クラス、替之が可能な各学年2学級以上
全校12学級。

中学校は
各学年3学級以上、全校9学級が可能です。

しかし、小中学校は、地域と結びついた「地域コミュニティ」として大切な役割もあることも事実です。

楽しく元気で想像力のある企画も地域では実施していることは周知の通りです。

人と育てる地域を育てる視点で検討願っているもので、
数十年後には、統合廃合を検討する時期は来るでしょう。

いずれにしても構成員と相互に話し合いで解決することか望ましいと思います。

＜三条市全体について＞
統合による適正化や小規模校での学校運営に関する意見

氏名 佐藤 榮

学校を中心とする地域コミュニティの在り方や統合による規模の適正化、小規模校の運営の継続など、将来的な学校の在り方について御意見がありましたらお聞かせください。

平成19年1月三条市の教育制度の検討について依頼がなされ(1)～(4)の検討がなされた
平成29年3月三条小学校・裏館小学校の統廃合から6年が経過した。

その後この統合について財政的・教育的見地からの
検証は市民に届いていないようである。

これからの流れは倍以上の早さとなる今、2029・2045年問題が目の前にある。

各学園のスタイル

各地域において、各々特徴あるスタイルを集合して三条スタイル検討を

平成19年の検討依頼事項に現状と課題は十分網羅されておることから、それを踏まえて
この検討会は次世代のこども親になっている世代が、どのようにこの検討会を評価される
のか教育政策の効果・教育的効果を求める。

我が町三条のよりよい将来のために、いま私たちができることを

令和6年に立ち、平成19年の委員であつたら何を「提言」したか
令和50年に、何を描くのか「フューチャー・デザイン」を

予測も6年でなく10年15年20年を予測し少子化と高齢化が、同時に到来している三
条市を想像し

特に人口が7万を切ったときに、これから教育的資産を残せる教育を

○AI を使える基礎知識

○外国語を話す、聞く、書く、読む事ができる教育環境の基礎を早急に進める。

「未来づくりは教育である」。

将来何年後に令和6年を振り返ったとき、今の検討会に関わった方々に「ありがとう」と
いってもらえるか

歴史によって令和6年は評価される。

＜三条市全体について＞

統合による適正化や小規模校での学校運営に関する意見

氏名 斎藤 真

学校を中心とする地域コミュニティの在り方や統合による規模の適正化、小規模校の運営の継続など、将来的な学校の在り方について御意見がありましたらお聞かせください。

【学校を中心とする地域コミュニティのあり方について】

- ◆「学校は地域の灯台である」分校勤務時の校長の言葉だ。地域の惜しみない協力と教育力により、豊かな教育活動展開が可能となる。統合化で住む所によっては、なじみ薄い離れた学校への協力も難しくなったり、学校への移動距離が長くなれば、活動展開にも支障は出てくるのではないだろうか。
- ◆「子どもの声が聞こえないと寂しいのみならず、わしらの生きがいもなくなる。」ある住民の声だ。学び舎での蓄積は、家庭や地域でのくらしや生活に還元される。住民は子どもからエネルギー（糧）をもらい、学校との協働による活性化により、地域コミュニティが創られる。
- ◆三条市は実にうまくいっているが、「平成の大合併」で事実上吸収された市町村の学校には、合理化の一つの策として、性急な判断のもとに学校を閉じた事例もかなり多い。

【統合による規模の適正化について】

- ◆国や三条市のこれまで提示した適正化方針に鑑みて議論することが重要ではある。統合により、集合体としての学びと生活の環境が保障されるため、文科省が進める「対話的な学び」の深化など、教育的効果が期待される場面では、よいものとなるし、今話題のウェルビーイングの考えも、“持続的な幸福”の面で小学以外の教育・保育バランスからみても「適正化」につなげられよう。
- ◆施設設備にかかる費用を大幅に抑制でき、本当に必要なモノ・コトに費やせられる。
- ◆懸念要素もある。特に小規模校の授業において教師の個別的なサポートを受けてきた児童や、挙手児童すべての発言が保障される環境は、統合校によっては、難しくなるであろう。

【小規模校の運営の継続について】

- ◆小規模校をプラス・マイナス双方から論じることができるが、マイナス面→統合化の議論につなげる全国的傾向もあり、プラス面での小規模校のよさを前面にし、将来につなげられるようにするとよい。
- ◆複式学級における「複式教育」は決して児童・教師にとってマイナスではないはずである。
- ◆常在する異学年交流が日常的に行われることにより、きょうだいが少なくなってきたなかでも、児童どうしの学び合いや関わり合いを児童主体で行う教育環境が自然な形でできあがってくる。「児童主体」と言いながら、教師が見繕うような、時に大規模校でみられる環境とは大きく異なる。
- ◆複式学級教師は、異学年に応じた単元構成等の工夫や「わたり」「ずらし」などの直接・間接指導の一技術も重要かつ大変な仕事だ。だが児童の生活経験をもとに学びをつくるという土台で考えれば、今求められる、教師の質向上にもつながるだけでなく、若手・中堅教師の自己研修ともなる。
- ◆小規模校は、児童一人ひとりの顔と名前を全教職員が数日で覚え、児童も担任以外の教職員へ積極的に関わりゆく姿もみられる。ノーチャイム制の学校では、児童相互に「今、何をするべきか、どう動くべきか」「自律」する姿が彼らの内に自然とつくられる。それは、最終的に「自分たちの学校を先生とどう創っていくか」の目標となり、全校で努力をし、工夫をしていくとする。
- ◆小規模校には前述のすばらしい環境が備わっている。可能であれば、教師がもっと地域にとけ込み、地域（校区）を知り、日常的教育活動において知見からの学びの展開が図れれば理想ではある。が、そうでなくても小規模校勤務で、教育の営みの源は何か？という普遍的課題を全校児童との日常的関わりを通じ、解決していける。残念ながら大規模校では不可能ではないだろうか。
- ◆地域住民との手で創る学校の姿は、この三条でもイルミネーションで学び舎を温（暖）かく灯したり、学校住人としてのヤギに、児童が日々関われる手立てを講じるなど、小規模校としての教育への取り組みには本当にすばらしいものがある。よき伝統の次世代への継承も考慮すべきではないか。
- ◆とはいえ、なんとしても児童数激減により、全校一ケタを迎えそうな、デメリット面が予想される場合、学校を完全に閉じるのではなく、別の再生アイデアも必要ではないか。例えば「小規模特認校」や、「県内初夜間中学設置」、八十里越完成後の「山村留学の場としての学び舎」転換の提案である。これにより、地域に在る学校の姿、地域で創る学校の姿が、少なくとも保障されるのである。

<三条市全体について>

統合による適正化や小規模校での学校運営に関する意見

学園名 高波 靖子

学校を中心とする地域コミュニティの在り方や統合による規模の適正化、小規模校の運営の継続など、将来的な学校の在り方について御意見がありましたらお聞かせください。

「子育て世帯が住みたいと思えるまちづくり」を念頭に学校の統廃合を考えるべきと思います。

人数が多い学校、少ない学校はそれぞれに長所短所がある上、それは「学校による」、もっといえば「人による」のでどちらが良いということはないと思います。

少子化、人口減少の今の時代に考えるべきは税金の使い方だと思います。

周知のとおり、今後、間違いなく税収が減っていきます。

人数の多い学校（埼玉）と人数の少ない学校（鳥取）の一人当たりのコストが年間100万円以上違うとのことですが、10年後15年後の事を考えると、この税負担を担っていくのは今の小中学生であり、20年後を考えると今の幼稚園生となります。その頃には現在税負担を担っている人口の多い世代は引退していきます。

「お隣の市の方が子育てしやすいイメージがある」というウワサをよく耳にしますが、今後税収がどんどん減る中でいわゆる「コスパの悪い」学校運営の税負担を次の若い世代に担ってってもらうことに不安を覚えます。

スクールバスの運転手の早めの確保も見据えて、統廃合に先手を打っておくべきではないでしょうか。

今年発表された「消滅可能性自治体」に三条市は含まれていませんでしたが、他人事ではないと思っています。

そしてどうせコストをかけるなら、「給食費無料化」等に予算を使ったほうが良いのでは？と考えています。

人口流出を防ぎ、さらには人口流入も期待できるような、子育て世帯が住みたいと思えるまちづくりのために予算を使えるようになってほしいと願います。